



工事部 岡野主任

＜一言コメント＞

結婚しました！これからもご指導ご鞭撻を宜しくお願いいたします。



工事部 太田所長

＜一言コメント＞

8月10日に待望の三男が生まれました。元気いっぱいです。男の子3人子育てが大変ですが頑張ります！

- 11月4日 創立記念式典・安全研修会
- 12月6日 忘年会(太閤園)
- 12月29日 仕事納め・納会
- 1月5日 初出・新年祝賀会



(仮称)Cアミーユ三国ヶ丘新築工事  
設計者：(株)広谷建築総合事務所  
完成日：2014年4月  
構造・規模：S造 3F 延床面積2157.20㎡



大和化成工業株式会社社屋増築工事  
設計者：自社  
完成日：2014年5月  
構造・規模：S造 4F 延床面積2040.7㎡



株式会社大晃化成富田林工場増築工事  
設計者：自社  
完成日：2014年5月  
構造・規模：S造4F延床面積2987.84㎡



セシリア九条建築計画  
設計者：自社  
完成日：2014年4月  
構造・規模：RC造 ●F 延床面積400.97㎡



名神通商(株)摂津営業所第二倉庫新築工事  
設計者：自社  
完成日：2014年4月  
構造・規模：S造 2F 延床面積247.5㎡



(仮称)ONLY ONE 池田新築工事  
設計者：自社  
完成日：2014年5月  
構造・規模：RC造 8F 延床面積1073.05㎡

- (仮称)五月が丘サービス付き高齢者向け住宅新築工事
- (仮称)優光福祉会大田2丁目特別養護老人ホーム新築工事
- 西喜連第5住宅5号館建設工事
- 瓜破東住宅3号館建設工事
- 桃栄金属工業ゲストハウス新築工事
- (仮称)都島介護付き有料老人ホーム
- 八雲小学校⑤棟校舎耐震補強工事
- 生興塗料(株)尼崎営業所新築工事
- 本社ビル新築工事



SE大東御陵3丁目店新築工事  
設計者：(株)阿波設計事務所  
完成日：2014年5月  
構造・規模：S造 平屋 延床面積215.83㎡

編集後記

MORINAGAPRESS第8号編集にあたり、ご協力並びにご支援いただきました皆様へ感謝申し上げます。さて、今回は現在着工中の本社建替えにあたり日本社誕生時代からの歴史を振り返りながらの記事を掲載させていただきました。創立68周年を迎えた当社の永い歴史を再認識するとともに諸先輩方々の苦勞があって今があるということを感じました。また、今回は当社関連事業である社会福祉法人旭長寿の森が4施設目となる高齢福祉施設を着工することになりその記事も掲載させていただきました。その他、「お客様訪問」ではお引渡しをさせていただきましたお施主様からエピソードとコメントをいただいております。今年も、温暖化の影響もあり暑い夏となりましたが、9月中旬頃からは秋晴れが気持ち良い毎日になってきました。朝夕はすっかり冷えこんできましたが、体調を崩さず頑張りましょう。(編集担当)



目次

- 巻頭メッセージ P.1
- 思い出の旧本社 P.2~3
- お客様訪問・注目記事 P.3
- 竣工だより・進行中現場・その他 P.4

「祖先の遺恵」

我が幸福は祖先の遺恵、子孫の禍福は我が平生の所行にあること、己に現代の諸学にも明らかなり。

(安岡正篤「傳家寶」)

(現代語訳)

私達の幸福は祖先が苦勞して遺してくれた恩恵の上に成り立っている。そして私達の子孫の幸、不幸は私達の平生の行ないにかかっている。

父を亡くしてから、父の苦勞に思いを寄せる機会が増えたためでしょうか、「我が幸福は祖先の遺恵」と、より強く感じるようになりました。当社の今があるのは、当社の68年の歴史の中で、諸先輩の苦勞と努力の一つひとつが現在の会社の安定につながってきたからに他なりません。お取引させていただいているお客様や協力会社さんとのご縁は、長い歴史の中で培われてきたからのもので、今の我々だけでつくったものではありません。ですから、ともかくも平穩に会社を経営できているのは、諸先

輩の「遺恵」と認識しなければなりません。

その認識がなければ、「子孫の禍福は我が平生の所行にあり」との自覚は生まれません。「祖先の遺恵」を理解できない者には、子孫に対する責任や使命を自覚できないし、諸先輩のお陰が分からない者には、後輩たちへの責任や使命が自覚できないのです。

本当に充実した人生を送るためには、責任と使命の自覚は不可欠です。そして、その自覚は自分が蒙っているお蔭を理解するところから始まるのではないのでしょうか。



代表取締役 森長 敬



株式会社 大晃化成  
代表取締役 丹羽次郎様

弊社は、昭和三十二年に創業し、現在は大手食品メーカーの粉体関連製品の加工を中心に、食品用の増粘剤、ゼリー剤など粉体の調剤品と雑貨としての家庭用品の生産を行っています。  
森長工務店さんとの出会いは、平成十七年でした。当事、食品製造業界としても生産品質の向上を求められており、弊社もお客様のニーズにお応えするための生産体制構築を検討しておりました。そのようなおり、取引先

企業様が香川県の工業団地にてクリーンルームのある医薬品工場の完成見学会にお招きくださいました。その工場の施工会社が森長工務店さんでした。  
その後弊社も工場を建替える計画を決定し、取引先様のお導きで森長さんをご紹介いただきました。計画段階から設計・工事を経て平成十九年に「新食品棟」は稼動しました。その後も親切なアフターサービスを続けていただいております。そして「新食品棟」で

の六年間の業績や製造品質をお客様から評価いただき、平成二十四年から増築計画を進めることになり、再度森長さんに建築を依頼しました。  
工場が稼動している状態で工事を進めていくのはお互い大変でしたが、今年の五月に無事完成しました。現在、さらなる品質向上を目指してがんばっております。  
今後も末永いお付き合いを宜しくお願いします。

# 思い出の旧本社



旧本社建物

現在、森長工務店の本社建替えプロジェクトが着々と進行中です。今年の七月以降旧本社の解体工事を開始し約二ヶ月を経て整地をする段階となりました。旧本社は昭和四十六年秋に誕生してのち、時代とともに四十三年の歳月を生き抜いてきたこととなりました。今回のモリナガプレス・メインページでは、旧本社がいかにして誕生したのか、その時代背景もあわせて綴り、社史の「ページを飾る」の一章。

## 時代背景を振り返る

当時の時代背景を振り返ってみると、その前年は、万国博覧会が千里に

ここで、当時を知る現役社員の北島万政さん（現お客様センター顧問）と柳本厚さん（現工事部顧問）にも再度登場いただき、いくつかの当時の写真を見ながら貴重なエピソードを語っていただきました。



着工前の現地写真

（北島）白い平屋建てが、昔の歯医者さんの建物を買収取らせてもらったのち、会社の事務所としていたところだ。その横の木造は倉庫にしていたと思います。

（柳本）毎朝七時に、この事務所に集合して現場へ出て行き、日没後現場を片付けて帰ってくるのが日課でした。当時は、毎月一日と十五日だけが定休日

て開催され、大阪を中心として高度経済成長時代の絶頂期でした。万博については森長工務店にも有名なエピソードがあります。万博開催前のインフラ整備の一部である地下鉄新大阪駅と千里線を結ぶ連絡通路工事及び受変電施設工事を請け負い、定められた短い工期（工期遅延は許されませんでした）を遵守しなんとか完成にこぎつけたことです。その工事中に故森長堯熙会長（当時専務取締役）は過労で胃・

十二指腸・肝臓・脾臓を患いながらも仕事に取り組み完遂されたという伝説です。「万博開催」という大きな使命の前には、個人の事情など言っておれない状況があったことがうかがえるエピソードです。



故森長堯熙会長  
当時四十一才（昭和四十四年撮影）

で、その他に「雨の日」は職方さんが来てくれないので休みとなっていました。

（北島）ちょっとでも雨が降ってたら来えへんかったな（笑）  
— 当時、おいくつだったのですか？  
（北島）ワシが三十ぐらい。あんたは？  
（柳本）四十二年入社から二十一ぐらいやと思う。



（北島）この写真は、会社で初めて購入したブルドーザーやで。交差点角で旭警察署へ渡る横断歩道も写ってる。  
— 右上に写って居られるのが北島顧問かもしねえね。ちなみに本社工事の監督さんは誰だったのですか？  
（北島）ワシですわ。もちろん総監督は当時「専務」の会長やけどね。あんたも応援で来てったな。

（柳本）墨出しで手伝いました。難しかった。特にタイル割りの墨出しと十  
— 北島顧問が現場担当だったんですね。  
難しい墨出しとは？  
（柳本）現在はコンクリート打ちの精度

地域に目を向けてみると、同じく昭和四十五年は阪神高速守口線が開通、旭区役所の新庁舎も同年完成、また豊里大橋も開通し、城北地区では有名な「平太の渡し」（大阪市運営の渡し舟）が廃業となりました。



## 旧本社設計開始

万博が開催されたことを見届けるとすぐに念願の新社屋建設を始動されたと聞き及んでいます。森長享二初代社長と故森長会長が希望を胸に病気を克服されながら旧本社は設計がスタートし、設計図も完成しよいよ工事着工となりました。

が高いので、先にパソコンを使ってあらかじめ机上でタイルを割り付けて計算し、コンクリート躯体図を作成し、ほぼ大きな狂いがなく仕上がります。しかし当時は、コンクリートの出来上りの状態を測ってから、タイルを合わせていく方法ですから、屋上から分銅を下げてみるとやはり傾斜が明らかになる。タイルは決まった寸法で一枚一枚貼って行かなくてはなりませんから、合わせるのが大変です。また、各階に窓がありますから尚更です。職方さんも今のような鋼製足場（足場板）ではなく丸太足場ですので、今思えば大変な作業でしたな。

（北島）タイルで思い出すのは、納得の行く色合いを決めるために、会長と何回も車に乗って色んな建物を見に行っていたことです。決めるのに一カ月は走り回りましたね。結局は特注タイルに決まりました。  
— 工事期間はどれくらいでしたか？  
（北島）まる一年かかったと思います。

故森長会長が特にこだわられた外壁タイルは、一枚の剥落もなく四十三年間微動だにしないことを皆さんも記憶されていることと思います。そうして一年かかった新社屋は無事完成したのです。

## 注目記事

### 介護付有料老人ホーム(仮称)「ゆう&あい都島」 来年6月オープンに向けて着工!!

森長工務店関連法人の社会福祉法人旭長寿の森が来年6月オープンに向けて目下、工事進行中です。2000年に特別養護老人ホーム「あいあい」を開業以来、今回で4施設目になります。旭長寿の森として過去14年間の運営で学んできた地域福祉サービスの経験を活かし集大成としての施設を目指しています。

森長工務店同様に地域の皆様のお陰で成長してきた旭長寿の森が今後も旭区・都島区を中心とした地域発展および地域貢献としての責任を果たせるよう今後も精進していきます。



## 旧本社誕生

旧本社は、昭和四十六年の秋も深い十月三十日に産声をあげました。斜め向かいの産業会館をお借りして、竣工披露会が開催されました。この日の森長享二初代社長と当時専務の故森長会長を初め、社員の皆さん、協力業者の皆さんの喜びは、どのようなものだったのでしょうか。現社員の皆さんは、今はいくつかの写真から想像してみてください。感動を共感しませんか？

